

2025 年度

岩 手 県 支 部 年 次 大 会

報 告 書 (案)

日 時 2025 年 7 月 5 日 (土) 14 時 00 分

場 所 プラザおでって

盛岡市中ノ橋通 1-1-10

TEL 019-604-3300

公益社団法人日本技術士会東北本部
岩手県支部

次 第

1. 開 会
2. 支 部 長 挨 拶
3. 会 議 成 立 報 告
4. 議 長 選 出
5. 議 事 及 び 報 告
6. 閉 会

2025年度 年次大会 報告及び議案事項

報告及び議案事項 1

2024年度事業報告及び収支決算並びに監査報告について

報告及び議案事項 2

岩手県支部長及び役員について

報告及び議案事項 3

2025年度事業計画及び収支予算について

報告及び議案事項 4

「第52回地域産学官合同セミナー」実行委員会設立について

以上の議案を提出します。

2025年7月5日

公益社団法人日本技術士会東北本部 岩手県支部

支部長 古山 裕康

2024 年度岩手県支部事業報告書

〔2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日〕

■ 2024 年度の活動概要

2024 年度は、感染症の拡大はなく、また災害等の災難も少なく例年通り、コロナ感染症拡大以前の活動に戻るべく、会員の皆様の工夫により活発な支部活動を行うことができました。

活動の概要を、以下に報告します。

1. 年次大会

2024 年 7 月 6 日（土）に支部会員 41 名の本人出席により開催し、議案事項は事務局提案のとおり承認されました。大会後には恒例の記念講演を開催しました。

2. 役員会

感染防止対策を講じたうえで、前年度と同様に隔月で計 6 回開催しました。

3. 講演会

講演会は、年次大会時のほか、秋季、新春の計 3 回開催しました。なお、秋季と新春講演会では 2023 年度から実施しているユーチューブ視聴を企画し、会場参加以外の聴講を継続し実施しました。

4. 研究会活動

支部に 11 ある研究会のうち 9 の研究会が現場研修やオンラインでの勉強会などを開催しました。各研究会がそれぞれに工夫しながら、積極的な活動が展開されました。

5. いわてまるごと科学・情報館

毎年恒例となっていた岩手県主催の「いわてまるごと科学・情報館」が再開 3 年目の開催となり、支部活動のパネル展示および協賛企業による展示・体験コーナーへの出展を行いました。

会員の皆様によりますこれらの活動によって、社会・地域へのより一層の貢献など支部の活動理念を実践できた 1 年でした。

I. 一般事業

1. 委員会・研究会活動

1-1 委員会活動

(1) 役員会の開催（役員会）→詳細は P.10「2. 役員会」にて記述

岩手県支部の規則に則り年間 6 回の役員会を計画し、支部活動に関する協議を開催した。

(2) 年次大会の開催（総務委員会）

岩手県支部及びいわて技術フォーラムの 2023 年度活動、決算報告、2024 年度の活動、予算計画の報告を行った。（2024 年 7 月 6 日）

(3) 技術士名簿の発行（総務委員会）

前年度と同様に Excel データによる岩手県支部及びいわて技術フォーラムの技術士名簿を作成し、会員に配布した。（2024 年 6 月）

(4) 広報活動（広報委員会）

① 東北本部「ガイアパラダイム」への寄稿を行った。

第 79 号（2024.07）：

■ 寄稿 わたしの趣味「スキーリゾートの楽しみ方 in ヨーロッパ」
(澤田 貞悦 氏)

■ 岩手県支部 2023 年度後期活動報告
(利部 哲 氏)

第 80 号（2025.01）：

■ 「能登半島地震からの復旧復興支援（能登の経験を次につなげる）」
(寺井 良夫 氏)

■ 各県支部長年頭の挨拶 「新年のご挨拶」
(古山 裕康 氏)

■ 岩手県支部 2024 年度前期活動報告
(利部 哲 氏)



(5) 講演会開催（企画委員会）→ 秋季・新春講演会の詳細は別紙「事業報告」にて記述

- 2024.7.6 於：プラザおでって 参加人数：35 名（会員限定）
～シリーズ岩手を知る（第 30 回）～
「皇居が盛岡へやってくる？」
- 2024.10.12 於：プラザおでって 参加人数：29 名(内WE配信視聴1名)
～シリーズ岩手を知る（第 31 回）～
「ツキノワグマ出沒の現状と対策」～クマが暮らす岩手の自然と私たち～
- 2025.1.25 於：プラザおでって 参加人数：40 名(内Youtube 配信視聴4名)
～シリーズ岩手を知る（第 32 回）～
「明治日本の産業革命 ～釜石の軌跡～」

公益社団法人 日本技術士会 東北本部 岩手県支部 2024 年度年次大会講演会

「皇居が盛岡へやってくる？」
～シリーズ岩手を知る（第 30 回）～

都市計画の視点で N.Y. タイムスに
つながる盛岡の魅力形成を探る

講師：中山 裕慶氏（技術士）

日時：2024.7.6（土）15:00～16:30

会場：プラザおでって 3 階 おでってホール

同時開催：2024.7.6（土）15:00～16:30
会場：プラザおでって 3 階 おでってホール

公益社団法人 日本技術士会 東北本部 岩手県支部
2024 年 秋季講演会
～シリーズ岩手を知る 第 31 回～

ツキノワグマ
出沒の現状と対策
～クマが暮らす岩手の自然と私たち～

講師：岩手県動物公園 2000 園長 辻本 恒徳 氏

日時：2024.10.12（土）15:00～16:30

会場：プラザおでって 3 階 おでってホール

入場無料

公益社団法人 日本技術士会 東北本部 岩手県支部
2025 年 新春講演会 ～シリーズ岩手を知る 第 32 回～

明治日本の産業革命
～釜石の軌跡～

講演者：釜石市文化スポーツ部文化振興課世界遺産室長 森 かずよし 氏
講師：釜石市文化スポーツ部文化振興課世界遺産室長 森 一欽 氏

日時：2025.1.25 SAT 15:00～16:30

会場：プラザおでって 3 階 大会議室

入場無料

(6) いわてまると科学・情報館への出展の参加（企画委員会）

→ 詳細は別紙「活動報告」にて記述

■ 2024.11.30 於：いわて県民情報交流センター アイーナ
全体 850 名

今年度は協賛団体として昨年度に引き続き（株）タカヤ様と（株）タックエンジニアリング様から出展のご協力をいただきました。

（株）タカヤ様からは iPad を使って現場管理ツールの一つとして活用している AR 技術を拡張現実体験できるコーナーや、リアルな現場の施工過程が見学できるパネル展示等の出展があり、（株）タックエンジニアリング様からは、地上型レーザ計測器による三次元計測のデモンストレーションや、ドローン映像の VR 体験、一定垂直倍率立体地形解析図(CVESmap)で見る防災ハザードマップのポスター展示等の出展がありました。

今後も引き続き地域に密着した活動を続け、地域経済・産業の発展、福祉の増進への寄与を続けていきたいと考えています。

(7) 技術部門別の研究活動全般の統括や技術士倫理に関する活動（技術委員会）

→ 詳細は別紙「活動報告」にて記述

■ 現場セミナーの開催など

(8) いわて技術士交流会（いわて技術フォーラム）→ 詳細は別紙「活動報告」にて記述
例年 4 回開催されるが、2 回の開催となった。

業務・研究発表（2 名）

■ 第 1 回 2024. 9.15 於：ホテルパールシティ盛岡

■ 第 2 回 2024.11.24 於：ホテルパールシティ盛岡

1-2 研究会活動

各研究会等において次の事業が行われた。

研究会名	事業名	実施月日	実施場所	事業内容、テーマ等	参加人数
道 路	現場研修会	2024.10.28	八幡平市 佐比内地区	一般国道 282 号(仮称)佐比内トンネル築造工事現場	15 名 ※
河 川	現場研修会	2024.10.11	釜石市 大槌町	「流域治水」の関する現地研修・釜石大槌圏域流域治水プロジェクト	15 名
鉄 道	現地研修会	2024.10.15	いわて沼宮内 駅付近	東北新幹線の環境対策工事 川原木トンネル五日町トンネル緩衝工設置現場	3 名
都 市	現地研修会	2024.11.2	盛岡市景観 重要構造物 「莫蔭九」	莫蔭九・森九商店の現場見学	8 名
	意見交換会	2024.11.2	盛岡市景観 重要構造物 「莫蔭九」	莫蔭九・森九商店の現場見学会における意見交換	8 名
農 業	現場研究会	2024.10.29	花巻市 北上市	「農地整備事業(中山間のほ場整備工事)」、「農村地域防災減災事業(営水路工事)」、「和賀中央農業水利事業(幹線用水路工事)」をテーマにした現地研修会	19 名
森林・水産	講演会	2024.5.17	北ホテル	①「災害続きの 15 年、岩手県の森林土木事業に従事して」講師：国土防災技術株式会社 佐藤達也氏 ②「岩手県の林業事業の取り組みについて」講師：岩手県農林水産部技監兼林務担当技監 工藤亘氏	10 名
	現地研修会	2024.10.20	二戸市～ 八幡平市	①二戸市浄法寺町 ウルシの生産工程見学 ②岩手県内水面水産技術センター試験場見学	16 名
応用理学	野外見学会	2024.10.9	盛岡市繫、 雫石町上 野、雫石町 御明神ほか	テーマ：雫石盆地周辺の層序と地質構造 講師：越谷 信 氏 岩手大学名誉教授 理学博士 岩手大学地域防災研究センター客員教授	26 名
鋼構造 コンクリート	現場研修会	2024.10.28	八幡平市 佐比内地内	一般国道 282 号(仮称)佐比内トンネル築造工事現場	15 名 ※

※ 道路、鋼構造・コンクリート研究会の 2 部会による合同研修会の延べ人数

2. 広報及び普及啓発事業

広く社会に技術士制度の普及啓発を図るとともに、技術士活用の促進、CPD 実施の促進及び支援のための情報提供など、技術士活動の活性化を図るための、以下の事業を行った。

(1) 広報

- ② ホームページ，E メールを活用した会員への情報提供，一般社会への PR
- ③ 会員名簿の作成，配布
- ④ 東北支部「ガイアパラダイム」、公益社団法人日本技術士会「技術士」への寄稿

(2) 普及啓発

- ① 会員及び協賛企業及び団体の拡大に向けた活動

3. 技術士の資質の維持・向上のためのCPD活動

技術士の資質の維持・向上を目的として、技術講演会ならびに研究会活動など、CPD 活動を行った。

(1) 研修会の開催

下記の通り技術委員会による初めての倫理研修会において会員へ参加を呼びかけ、研修会を開催した。

- ① 2025. 1.25 「失敗の本質 ～岩手県庁の組織論的研究～」

(2) 研究会活動

会員へ参加を呼びかけ「1. 委員会・研究会活動」に示すとおり開催した。

4. 社会貢献活動

(1) 講演会の開催

下記の講演会において市民へ参加を呼びかけ、Web 配信も行いながら多くの方々に参加いただけるように開催を行った。

- ① 2024. 7.05 「皇居が盛岡へやってくる？」
- ② 2024.11.12 「ツキノワグマ出没の現状と対策」～クマが暮らす岩手の
自然と私たち～
- ③ 2025. 1.25 「明治日本の産業革命 ～釜石の軌跡～」

(2) いわてまるごと科学・情報館への出展（於：いわて県民情報交流センター

アイーナ）

- ① iPad 現場管理 AR 技術の拡張現実体験コーナー
- } 協賛団体である
(株)タックエンジニアリング様、
(株)タカヤ様によるブース出展

- ② ドローン映像のVR体験
- ③ 一定垂直倍率立体地形解析図(CVESmap)で見る
防災ハザードマップ

支部から2名参加

5. 東北本部活動への参加

東北本部との連携によって、本会の円滑な運営を図るために、以下の活動に参加した。

- (1) 役員会への参加(Web&対面)
- (2) 東北本部政策事業委員会への参加(Web&対面)
- (3) 東北本部機関誌「ガイアパラダイム」への寄稿

II. 会議の記録

1. 合同年次大会

公益社団法人日本技術士会東北本部岩手県支部・いわて技術フォーラム
2024 年度合同年次大会

概 要 : 報告及び議案事項 1 2023 年度事業報告及び収支決算並びに監査報告について
報告及び議案事項 2 2024 年度事業計画及び収支予算について

議案事項 1、2 とも承認される。

その他意見等； なし

2. 役員会

開催日	役員会	主要議題
2024.5.30	第 1 回役員会	・ 2024 年度第 1 回東北本部役員会報告 ・ 2024 年度東北本部第 1 回 CPD 委員会報告 ・ いわてまるごと科学館について ・ 岩手県支部役員会選任について ・ 合同年次大会の議案承認、懇親会について ・ 各研究会の活動報告、ならびに活動予定
2024.8.6	第 2 回役員会	・ 2024 年度第 2 回東北本部役員会・試験担当者会議および年次大会報告 ・ 秋季講演会について ・ いわてまるごと科学館について ・ 各研究会の活動報告、ならびに活動予定
2024.9.25	第 3 回役員会	・ 2024 年度第 3 回東北本部役員会報告 ・ いわてまるごと科学・情報館について ・ 秋季講演会及び新春講演会について ・ 各研究会の活動報告、活動予定について
2024.11.26	第 4 回役員会	・ 2024 年度第 3 回東北本部役員会報告 ・ いわてまるごと科学・情報館開催報告 ・ 新春講演会について ・ 令和 6 年度倫理研修会について ・ 研究会の活動報告、ならびに活動予定
2025.1.29	第 5 回役員会	・ 2024 年度新春講演会開催報告について ・ 2024 年度第 4 回東北本部役員会報告について ・ 2025 年度事業スケジュールについて ・ 各研究会の活動報告、活動予定について
2025.3.26	第 6 回役員会	・ 2025 年度支部役員改選について ・ 2023 年度合同年次大会に向けた準備について ・ 2025 年度いわて技術フォーラム代表幹事選挙に向けた準備について ・ 各研究会の活動報告、活動予定について

III. 会員の動向

1. 岩手県支部

令和7年4月時点の会員の動向及び構成は以下の通りである。

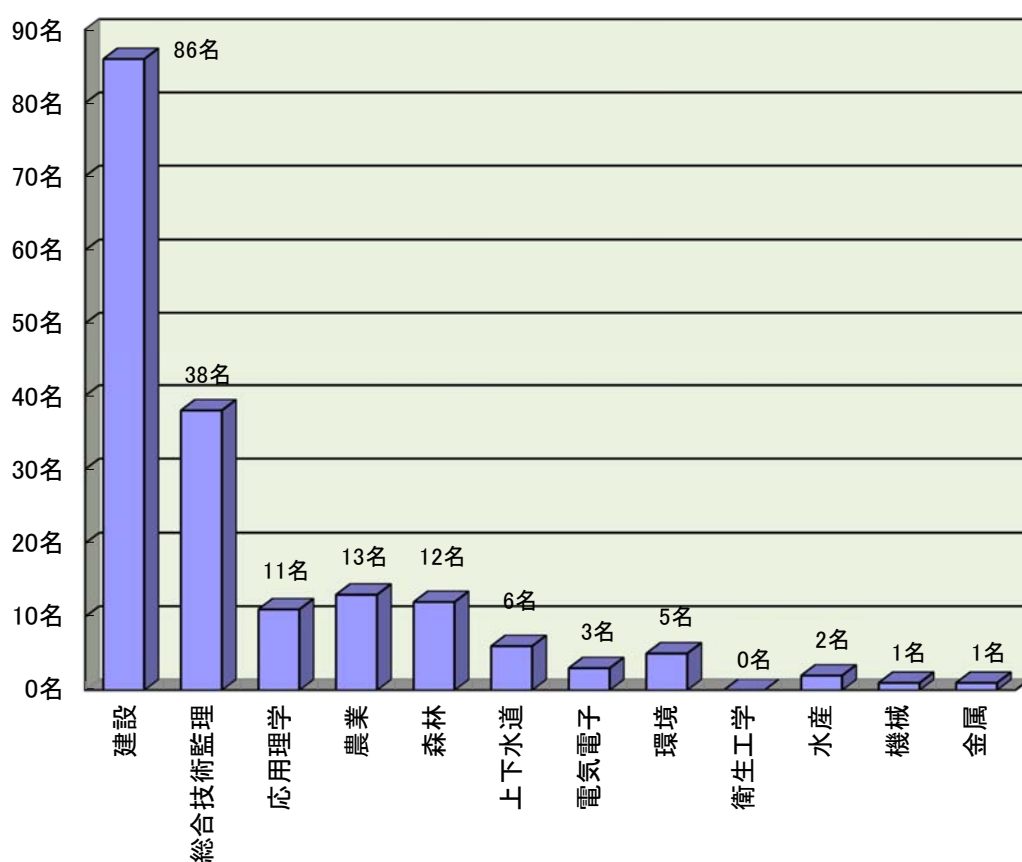
【会 員】 124 名（実数）：前年度会員数 124 名

【準 会 員】 9 名（実数）：前年度会員数 9 名

【賛助会員】 8 社：前年度会員数 8 社

下のグラフに示された各部門の人数は複数部門をカウントした数値になっているので実数と整合しない

岩手県支部会員の部門別状況



※※※※※※※※※※※※※※※※※※

決算報告書

※※※※※※※※※※※※※※※※※※

第 19 期

自 2024年 4月 1日

至 2025年 3月31日

統合会計（地域組織）

一般会計
岩手県支部

貸借対照表

2025年 3月31日現在

統合会計（地域組織）
一般会計

岩手県支部
（単位：円）

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	965,538	690,548	274,990
普通預金	965,538	690,548	274,990
未収金	0	260,000	△ 260,000
流動資産合計	965,538	950,548	14,990
資産合計	965,538	950,548	14,990
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産	965,538	950,548	14,990
正味財産合計	965,538	950,548	14,990
負債及び正味財産合計	965,538	950,548	14,990

収支計算書

2024年 4月 1日から2025年 3月31日まで

統合会計（地域組織）
一般会計

岩手県支部
（単位：円）

科 目	予算額	決算額	差 異
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
地域組織収入	[598,000]	[652,000]	[△ 54,000]
地域組織活動費収入	348,000	402,000	△ 54,000
地域組織活動補助費収入	(250,000)	(250,000)	(0)
講演会・見学会開催補助費収入	250,000	250,000	0
雑収入	[0]	[140,318]	[△ 140,318]
受取利息	0	318	△ 318
雑収入	0	60,000	△ 60,000
協賛金収入	0	80,000	△ 80,000
事業活動収入計	598,000	792,318	△ 194,318
2. 事業活動支出			
事業費支出	[0]	[777,328]	[△ 777,328]
事業広報費	(0)	(50,908)	(△ 50,908)
インターネット運用費	0	34,408	△ 34,408
その他の広報活動費	0	16,500	△ 16,500
研鑽費	(0)	(374,712)	(△ 374,712)
講演会・見学会開催費	0	374,712	△ 374,712
業務推進費	(0)	(351,708)	(△ 351,708)
賃金	0	15,000	△ 15,000
会議費	0	123,500	△ 123,500
旅費交通費	0	23,230	△ 23,230
通信運搬費	0	44,597	△ 44,597
消耗品費	0	4,500	△ 4,500
各種会合費	0	37,521	△ 37,521
事務所賃借料	0	80,000	△ 80,000
雑費その他	0	23,360	△ 23,360
事業活動支出計	0	777,328	△ 777,328
事業活動収支差額	598,000	14,990	583,010
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
投資活動収入計	0	0	0
2. 投資活動支出			
投資活動支出計	0	0	0
投資活動収支差額	0	0	0
III 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出			
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
IV 予備費支出	0		0
当期収支差額	598,000	14,990	583,010
前期繰越収支差額	900,000	950,548	△ 50,548
次期繰越収支差額	1,498,000	965,538	532,462

財産目録

2025年 3月31日現在

統合会計（地域組織）
一般会計

岩手県支部
（単位：円）

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金 額
(流動資産)	預金	普通預金		965,538
		岩手/岩手銀行		965,538
流動資産合計				965,538
資産合計				965,538
正味財産				965,538

監査報告書

令和 7 年 4 月 29 日

公益社団法人日本技術士会東北本部岩手県支部

支部長 古 山 裕 康 様

会計幹事 松原 和 則 

会計幹事 菅原 隆彦 

公益社団法人日本技術士会東北本部岩手県支部 規則第 41 条に基づき、令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日までの令和 6 年度の監査を行ったので、その結果について報告する。

1. 監査の方法の概要

会計監査のため、会計に関する書類を閲覧し、計算書類についての照合その他
相当な方法を用いて調査した。

2. 監査結果の意見

収支決算書は、収支の状況を適正に表示しているものと認める。

以上

岩手県支部 委員会・研究会 活動報告

活動名	広報委員会広報活動 (1. ガイアパラダイムへの寄稿 2. いわてまるごと科学・情報館への出展)
主催	1. (公益社団法人) 日本技術士会東北本部(ガイアパラダイム) 2. いわてまるごと科学館実行委員会
日時	1. ガイアパラダイム第79号(2024/7/1), 第80号(2025/1/1) 2. いわてまるごと科学・情報館(2024/11/30)
場所	1. ガイアパラダイム技術士東北紙面 2. いわて県民情報交流センター アイーナ
参加人数等	1. ガイアパラダイム第79号は2名、第80号は3名寄稿 2. 2名(岩手県支部より)

活動内容

1. ガイアパラダイム技術士東北への寄稿 (第79号、第80号)

[illegible][illegible]

第79号では当支部の澤田貞悦氏より「スキーリゾートの楽しみ方 in ヨーロッパ」の題目でわたしの趣味の項に寄稿していただきました。また、各県支部活動報告の項には利部哲が岩手県支部の2023年度後期活動を報告しました。

第 80 号には当支部の寺井良夫氏より「能登半島地震からの復旧復興支援〈能登の経験を次につなげる〉」の題目で技術漫歩の項に寄稿していただきました。また、各県支部長年頭の挨拶を古山支部長より寄稿していただきました。その他には、各県支部活動報告の項に、利部哲が岩手県支部の 2024 年度前期活動を報告しました。

2. いわてまるごと科学・情報館

今年度は協賛団体として昨年度に引き続き (株)タカヤ様と(株)タックエンジニアリング様から出展のご協力をいただきました。(株)タカヤ様からは iPad を使って現場管理ツールの一つとして活用している AR 技術を拡張現実体験できるコーナーや、リアルな現場の施工過程が見学できるパネル展示等の出展があり、(株)タックエンジニアリング様からは、地上型レーザ計測器による三次元計測のデモンストレーションや、ドローン映像のVR体験、一定垂直倍率立体地形解析図(CVESmap)で見る防災ハザードマップのポスター展示等の出展がありました。

《利部 記》

岩 手 県 支 部 委 員 会 ・ 研 究 会 活 動 報 告

活 動 名	令和 6 年度 森林・水産研究会 総会・研修会 (CPD 番号 6-1)
主 催	岩手県支部 森林・水産研究会
日 時	令和 6 年 5 月 17 日 (金) 総会 15:00～15:30 研修会 15:40～17:10
場 所	岩手県盛岡市内丸 17-45 北ホテル
参加人数等	総会 16 人 研修会 16 名 (講師 2 名含む)
活 動 内 容	
1. 令和 6 年度 森林水産研究会総会 1.1 令和 6 年度活動報告、会計報告 令和 5 年の活動報告、会計報告について事務局より説明を行い会員からの承認を得ました。 1.2 役員の変更 現代表幹事事務局担当である佐藤達也が異動のため空席となりました。新幹事の選出は、大坪俊介氏が指名され承認を得ました。 1.3 令和 6 年度活動計画 (案) 令和 6 年の活動計画 (案) について事務局より説明を行い会員からの承認を得ました。	
2. 令和 6 年度 森林水産研究会研修会 2.1 「災害続きの 15 年、岩手県の森林土木事業に従事して」 講師：国土防災技術株式会社 佐藤 達也 近年、岩手県内において大地震により発生した地すべり災害復旧、大津波による防潮堤の復旧について、写真や映像にて発表しました。 現在の状況をドローンで撮影し、森林に復旧しつつある映像を皆様に観ていただき、治山事業の効果や必要性について説明しました。皆様に、興味深く拝聴していただいております。 2.2 「岩手県の林業事業の取り組みについて」 講師：岩手県農林水産部 技監兼林務担当技監 工藤 亘氏 令和 6 年度のいわての森林、林業概要や岩手県の森林資源の活用、令和 6 年度の治山事業費等々のご説明をいただきました。 高性能林業機械やその従事者不足の問題、ナラ材の高騰の理由、木質バイオマス発電の活発化と資源の問題等、聴講者からも多くの質問がなされ、非常に有意義な研修会となりました。 — 以 上 — (文責 佐藤)	
 総会の様子  研修会の様子  講師の工藤 亘氏	

岩手県支部 委員会・研究会 活動報告

1/4

活動名	令和6年度応用理学研究会野外見学会 (CPD 番号 6-3)
主 催	(公社) 日本技術士会東北本部岩手県支部応用理学研究会
日 時	2024 年 10 月 9 日 (水) 9 : 30 ~ 16 : 00
場 所	盛岡市繫、雫石町上野、雫石町御明神ほか
参加人数等	26 名
活 動 内 容	
岩手県支部応用理学研究会では、今年度も継続研鑽の一環として野外見学会を企画し、次のような内容と行程で見学を行いました。 テーマ：雫石盆地周辺の層序と地質構造 案内者：越谷 信 氏 岩手大学名誉教授 理学博士 岩手大学地域防災研究センター 客員教授 <行程>：9 : 30 ~ 10 : 00 (0.5h) Stop 1 御所ダムサイト周辺：中期中新世飯岡層 全体説明・飯岡層露頭観察・御所ダム見学 10 : 30 ~ 12 : 30 (2.0h) Stop 2 上野沢沿い：雫石盆地西縁断層帯と背斜構造 Stop 2-1 橋場層デイスait質凝灰岩 Stop 2-2 山津田層デイスait質凝灰岩 Stop 2-3 舩沢層成層した細粒砂岩、凝灰岩を挟む Stop 2-4 橋場層デイスait質凝灰岩 Stop 2-5 岩屑なだれ堆積物？ 14 : 00 ~ 16 : 00 (2.0h) Stop 3 赤渕下流竜川沿い：中～後期中新世小志戸前沢層と鮮新世舩沢層の境界と活構造 Stop 3-1 小志戸前沢層成層細～中粒砂岩（各種堆積構造） Stop 3-2 小志戸前沢層塊状中粒砂岩（ノジュール、断裂構造） Stop 3-3 小志戸前沢層・舩沢層の境界構造 予備（実施せず）16 : 10 ~ 17 : 00 Stop 4 大地の沢・志戸前川合流点付近：中期中新世国見峠層・竜川層 Stop 4-1 国見峠層 Stop 4-2 竜川層 <オブザーバー参加>：佐藤修一郎 氏（岩手県立博物館 専門学芸調査員） 当日は秋晴れとは言えないまでも雨の降ることもなく、程良い見学会日和となりました。 参加者は総員で 26 名でした。当研究会の見学会では例年、技術士同伴の下、技術士を目指す若手技術者の方等にも、ご参加をいただいております。今回は特に多くの若手技術者の方に参加をいただき、20 代～70 代までの非常に幅広い世代の技術者が一緒に見学会を実施できたことは、とても意義深いことではないかと思えます。 次の機会においても、さらに多くの技術者の方にご参加をいただき、世代間でコミュニケーションを図りながら、応用理学の見学ができれば非常に有難いものと考えております。 最後に、お忙しい中、見学会の開催にご尽力をいただき、案内役をお引受けいただきました越谷先生、本当にありがとうございました。また、何より事故なく無事に見学会を行えたことについて、ご参加をいただいた皆様方のご協力・ご配慮に深く感謝申し上げます。 《菅原 弘 記》 ・・・次ページ以降に活動状況写真・・・	

Stop1 : 御所ダムサイト周辺



御所ダムサイト脇の駐車場に集合しての、
開始前オリエンテーションの実施状況



マイクを使って熱心に解説をしてい
ただく越谷先生



御所ダムサイトをバックにした集合写真



飯岡層安山岩質火山角礫岩の観察



御所ダムの複合ダムの構造について

Stop2 : 上野沢沿い



車で移動しながら橋場層デイサイト質凝灰岩の観察



舩沢層細粒砂岩・凝灰岩互層の観察



上野沢河床に降りての山津田層デイサイト質凝灰岩の観察



再び現れた橋場層デイサイト質凝灰岩の観察

Stop3 : 赤荆下流竜川沿い



竜川河床に降りて越谷先生の説明を聞く参加者の様子



小志戸前沢層の断裂の微細構造の観察



小志戸前沢層の岩相や層理の観察



Stop3 : 小志戸前沢層の露頭での集合写真

以 上

岩 手 県 支 部 委 員 会 ・ 研 究 会 活 動 報 告

活 動 名	令和 6 年度 森林・水産研究会 現地研修会 CPD 番号 No. 6 - 4
主 催	日本技術士会 東北本部 岩手県支部 森林水産研究会
日 時	令和 6 年 10 月 10 日 (木) 9:30 ～17:00
場 所	岩手県二戸市浄法寺町 ウルシの生産工程～ 八幡平市松尾寄木 岩手県内水面水産技術センター試験場
参加人数等	10 人 (本部会員 6 名 非本部会員 3 名 一般 1 名)
活 動 内 容	
以下のテーマによる現地研修会を実施した。 <u>①ウルシ植栽地見学 10:45～11:30 (45 分)</u> 案内：県北広域振興局二戸農林振興センター林務室 室長 佐々木康彦様 林業振興課長 兼 上席林業普及指導員 岩崎正様 →二戸市浄法寺町安比法龍平のウルシ木植栽地を見学した。 樹齢 15 年程度で殺し掻きにより採取され、1 本の木から約 200g しか採れない。採取後は伐木するため、一度になくならないように様々な林齢の植栽地がある。漆の年間生産量は約 1.2 トンと少ないが、日本の生産量の約 8 割が浄法寺漆であることなどを説明いただいた。	
<u>②浄法寺歴史民俗資料館見学 12:40～13:10 (30 分)</u> 案内：資料館職員 →浄法寺における漆産業の歴史について資料館職員の方に説明していただいた。漆の実は天然のロウにより覆われており、かつてはこれを原料にロウソクが作られていたことなどを説明いただいた。	
<u>③滴生舎見学 13:15～14:15 (60 分)</u> 案内：滴生舎職員 →漆器に用いる漆液はお椀ひとつで約 20g 使う。塗り刷毛は人の髪の毛から作られていることなどを説明いただいた。	
<u>④内水面水産技術センター見学 15:10～15:55 (45 分)</u> 案内：岩手県内水面水産技術センター所長 野呂忠勝様 →内水面水産技術センターの概要や計画、取組みについて。場内には毎分 30t という安定した地下水が湧出しており、これを養殖に用いている。バイオテクノロジーを用いた発眼卵生産の効率化などについて説明いただいた。	
現地研修会①～③では、浄法寺における漆産業の歴史、ウルシの植栽、製品の製造・販売までの一連の流れを知ることができました。 現地研修会④では、普段なかなか入ることの出来ないサケマスの養殖現場を見学させていただきました。 各研修ではたくさんの質問があり、時間が足りないほど大変有意義な研修会となりました。 今後も現場研修会を通じて技術の研鑽に努めて参ります。 以 上 (文責 大坪)	



ウルシ植栽地見学状況



内水面水産技術センターでの研修状況



集合写真

岩手県支部 委員会・研究会 活動報告

活動名	令和6年度河川研究会現場研修 (CPD 番号6-5)
主催	公益社団法人日本技術士会東北本部岩手県支部河川研究会
日時	2024年10月11日(金) 10:30 ~ 15:00
場所	(1) 釜石市 (2) 大槌町
参加人数等	会員: 15人 説明: 岩手県沿岸広域振興局土木部職員、釜石市職員
活動内容	
1. 事業概要 釜石大槌圏域流域治水プロジェクト (1) 大松砂防堰堤改築(目的)築造63年の石積堰堤へコンクリート腹付けし堰堤の補強。土石流、流木を捕捉し、流域を守る。(事業)砂防施設等緊急改築事業(事業費)約2.16億円(事業期間)R3-R6(諸元)堤長93.3m、堤高11.5m、コンクリート3,309m³ (2) 天神の沢(4)砂防:(目的)土石流、流木を捕捉し、市街地を守る。(事業)大規模特定砂防事業(事業費)約4億円(事業期間) R2-R6(諸元)計画堆砂1,393m³、堤長31.4m、堤高7.5m、コンクリート911m³ (3) 汐立雨水ポンプ場(目的)流域からの雨水排水し市街地浸水被害軽減(事業)雨水ポンプ施設建設事業(事業費)約43億円(事業期間) H26-R2(諸元)排水面積62,92ha、大ポンプ(口径1500mm排出量315m³/分)×2台、小ポンプ(口径500mm排出量35m³/分)×2台、最大700m³/分 (4) 尾崎白浜の沢(9)砂防堰堤(目的)R1台風第19号土石流被害軽減(事業)砂防激甚災害対策特別緊急事業(事業費)約4.5億円(事業期間)R2-R6(諸元)計画堆砂26,181m³、堤長104m、堤高14m、コンクリート6,550m³ (5) 大槌川大ケロ災害復旧(目的)R1台風第19号被災復旧(事業)災害復旧事業(事業期間)R1-R2(諸元)事業区間186.2m、護岸工、築堤工 ☆従前からあった護床ブロックは再利用すべき。撤去しないこと。 2. 現場研修(主な質疑応答) (1) 大松砂防 ①堰堤のボーリング調査は行ったのか?→堤体断面方向に2本実施。②水通し部の嵩上げの検討は行わなかったのか?→既設堰堤の改築事業(補修)であることから嵩上げは行わないこととした等。 (2) 天神の沢(4)砂防 ①除石の方法は?→堤体の表側から実施。②鋼製スリットの幅の決め方は?→上流からの石の径を考慮して決定等。	
 (1) 大松砂防堰堤:釜石市  (2) 天神の沢(4):釜石市 (3) 汐立ポンプ場 ①トラブル時対応用の予備ポンプは?→なし。②大ポンプ稼働の頻度は?→年3回程度。③令和元年台風で浸水があったがそれ以降浸水被害は?→浸水被害無し、効果発現している等。 (4) 尾崎白浜(9) 砂防堰堤 ①鋼製スリットはサビ発生しているが?→サビを考慮した鋼材の厚さ。②鋼製スリットの間隔は?→転石、流木を考慮し決定等。 (5) 大槌川大ケロ災害復旧 ①現場の護床ブロックはどこから持ってきたのか?→東日本大震災津波復旧・復興の現場から持ってきた。②当該区間の河川改修で落差工撤去したとのことであるが、河床勾配は従前より急になったのでは?→上下流の現況河床勾配は勘案し、従前より緩い勾配とした等。	
 (3) 汐立ポンプ場:釜石市  (4) 尾崎白浜(9)砂防堰堤:釜石市  (5) 大槌川大ケロ災害復旧:大槌町 ※かっこ書きの数字は、砂防堰堤シリーズの枝番を示す (河川研究会代表 高橋 記)	

事業報告

活動名	日本技術士会東北本部岩手県支部2024年度秋季講演会 ～シリーズ岩手を知る(第31回)～ 「ツキノワグマ出没の現状と対策」 ～クマが暮らす岩手の自然と私たち～(CPD番号5-12)
主催	公益社団法人 日本技術士会 東北本部 岩手県支部
日時	令和6年10月12日(土) 15:00～16:45
場所	プラザおでつて おでつてホール(〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通1丁目1-10)
参加人数等	61名(会場54名、WEB配信視聴7名)
活動内容	
●講演内容 【講師】 盛岡市動物公園 ZOOMO 園長・盛岡市都市整備部公園みどり課獣医主査 辻元恒徳氏 講師は盛岡市の動物公園開園準備を経て、平成元年の開園以来、獣医師として動物たちの診療防疫に従事すると共に、里や街に出没する野生動物の捕獲や調査など、動物たちと奮闘しつつ、平成23年から動物公園長も務める。 【講演要旨】 講演では、ツキノワグマの生態は、肉食から豊かな森での植物食中心へと進化。しかし、近年、山里や街中への出没が多くなり、人身被害の恐れもでてきている。これは、山から下りてくる野生動物と我々との関係について考えること、つまり、人と野生動物との共生を維持すること「せめぎ合い」のバランスであることを強調した。山林・山里の利用形態変化や生活様式・食文化の変化により、生息域の拡大・畑被害・街中への侵入で、現在「人は野生動物に負けている!？」と言われる。クマとの共生は環境保全と被害防除のため、仲良く平和にではないこと、「被害防除」と「共生」は相反する課題ではない!と力説。野生動物保全・野生動物との共生とは、人間も含めて生態系の構成要素であり、概念として「生物多様性」の保全である。生物の多様性＝生態系の構成と維持であり、それぞれの種が複数の連鎖を持ち、生態系は連鎖の微妙なバランスにより保たれている。人と動物、そして自然環境(生態系)は相互につながっている。そして、多くの動物が暮らす、岩手の豊かな自然は、「自然に向き合う風土が残る」素晴らしい地域であり、葛巻高原牧場・荒川高原牧場・安比高原牧場など、地形を生かし、山と谷が作り出すランドスケープがある。ワンワールドワンヘルス＝「人と動物が共存して生きる社会」は、自然豊かな岩手には昔からある。古代からの陸奥の名馬である「南部馬」の産地であったこと、最近では、絶滅の危機にあるイヌワシが32ペア(国内最多:盛岡市内にも)生存が確認されている。最後に、日本人の自然観(動物観)について、それは縄文時代の原始宗教観であり、「自然の恵」命を食べて生きること、自然環境の変動と循環(生命の循環)を守ってきた。そこには、神の信仰があり、輪廻転生の世界観でもあった。日本古来の狩猟文化も、自然に対する向き合い方「せめぎ合いながらも共生する暮らし方」であった。岩手の大地と空のもと豊かに暮らしてきた古来の人々に想いを馳せながら、「人と自然の関係性」が重要であると締め括った。 ※2023年4月20日に、動物公園がリニューアルオープンした。 ※新・動物病院をつくりたい!是非、ご理解とご協力をお願いする。	
	
古山支部長の挨拶	
	
講師の辻本恒徳氏	
(文責 川野好宏)	

岩手県支部 鉄道研究会 活動報告

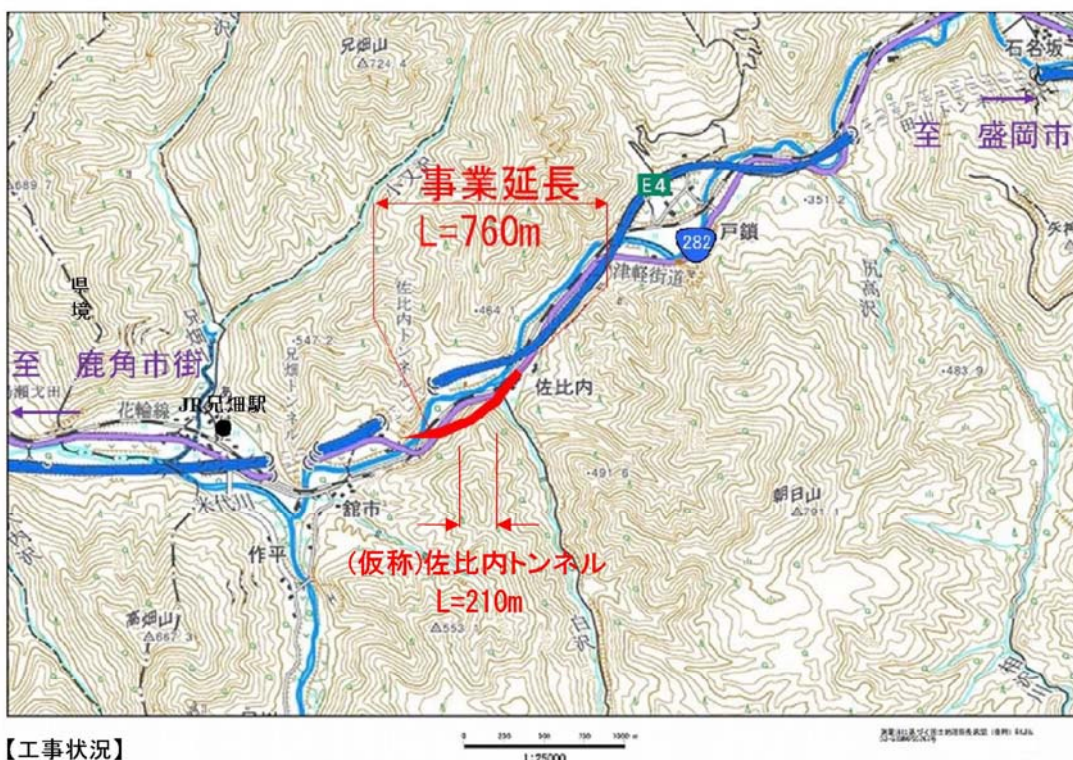
活動名	現場研修会 (CPD 番号 6-7)
主催	鉄道研究会
日時	2024 年 10 月 15 日 (火) 14:00 ~ 15:00
場所	東北新幹線いわて沼宮内駅付近川原木トンネル及び五日市トンネル現場
参加人数等	3 人
活動内容	
1. 現場研修会の概要 (1) 工事現場内で事業概要及び工事内容確認 (2) 工事現場内での工事实施状況確認 2. 現場研修状況 (1) 現場に於いて事業概要及び工事内容の説明 (2) 工事現場での事業概要及び工事内容、及び各施設の仕上がり状況の確認 以上について詳しく説明していただきました。	
 写真1.現場内での説明状況	
 写真2.視察状況（橋梁桁下での説明）	
 写真3.川原木トンネル緩衝工全体	
(鉄道研究会代表 澤田 記)	

岩 手 県 支 部 委 員 会 ・ 研 究 会 活 動 報 告

活 動 名	令和 6 年度鋼構造コンクリート・道路研究会合同現場研修会 (CPD 番号 6-8)
主 催	公益社団法人日本技術士会東北本部岩手県支部 鋼構造コンクリート研究会・道路研究会
日 時	2024 年 10 月 28 日 (月) 13:50～15:20
場 所	一般国道 282 号 (仮称) 佐比内トンネル築造工事 岩手県八幡平市佐比内地内
参加人数等	岩手県支部会員: 15 人、岩手県盛岡広域振興局土木部岩手土木センターほか
活 動 内 容	
【現場研修会の概要】 鋼構造コンクリート研究会及び道路研究会では岩手県(盛岡広域振興局土木部岩手土木センター)が八幡平市佐比内地内で進めている一般国道 282 号(仮称)佐比内トンネル築造工事の現場研修会を合同で開催し、岩手県支部会員 15 人が参加した。 【現場研修会対象事業の概要】 一般国道 282 号は、盛岡市から八幡平市、秋田県鹿角市等を経由して青森県平川市を結ぶ北東北の産業振興、交流等を支える主要な幹線道路であり、並行する東北縦貫自動車道弘前線が事故や降雪等により通行止めとなった際には、代替路としての役割を担う重要な路線である。 しかし、本路線の八幡平市佐比内地区は、幅員狭小、線形不良区間が連続し、車両のすれ違いが困難な隘路となっており、冬期間の積雪量も多いことから、安全で円滑な通行の支障となっていた。 このため、平成 24 年度から(仮称)佐比内トンネル(210.0m)を含む延長 760m の道路整備事業に着手し令和 6 年 3 月から(株)ピーエスコンストラクション・(株)近江建設特定共同企業体の施工により、(仮称)佐比内トンネル築造工事を進めているものである。 【現場研修会の実施状況】 現場研修会では、岩手県及び工事受注者から事業概要、工事の進捗状況等について説明があった後、掘削工事に着手した直後の終点側坑口部付近の施工状況等を確認した。終点側坑口部には、崖錐堆積層(未固結層)が分布しており、小口径長尺鋼管先受工等の補助工法を併用して掘削が進められていた。 また、トンネル計画区間の一部には自然由来のヒ素の含有が確認されており、対策工法の検討状況や、周辺の希少野生動植物への対応等について説明があった。 トンネル計画や地質の特徴、施工時の留意点等活発な意見交換が行われ、有意義な現場研修会となった。	
 岩手県による工事概要等の説明  掘削状況(終点側坑口部付近)  参加者で集合写真 (道路研究会代表 熊谷 記)	

岩手県支部 委員会・研究会 活動報告

【位置図】



【工事状況】



終点側坑口部 (令和6年5月8日時点)



終点側坑口部 (令和6年11月1日時点)



トンネル掘削状況 (令和6年11月12日時点)

公益社団法人日本技術士会東北本部 岩手県支部事業活動報告

活 動 名	令和6年度 農業研究会 現地研修会 (CPD 番号 6-9)
委員会・研究会名	(公社) 日本技術士会 東北本部 岩手県支部 農業研究会
日 時	令和6年10月29日(火) 10:00:~16:30
場 所	岩手県花巻市、北上市
参加人数等	会員9人、一般10人、 合計19人 説明者：岩手県県南広域振興局農政部 北上農村整備センター 農林水産省東北農政局和賀中央農林水利事業所 若築建設株式会社 東北支店
活 動 内 容	
I. 研究会活動報告 岩手県支部農業研究会では、会員の技術研鑽に資する活動の一環として、「農地整備事業（中山間のほ場整備工事）」、「農村地域防災減災事業（管水路工事）」、「和賀中央農業水利事業（幹線用水路工事）」をテーマにした現地研修会を企画しました。 II. 中山間のほ場整備工事（スマート農業の取組み） 講師：岩手県県南広域振興局 農政部 北上農村整備センター 技術主幹兼農地整備課長 菅原 憲哉 氏、 同課 主任 五十公野 太郎 氏 本地区は、昨年度に本研究会の現地研修で実施した「平良木地区」に引き続き、北上管内で取り組む「中山間地域でのスマート農業」に対応したほ場整備工事の現地研修を実施した。 【概要】 ① 事業名及び地区名 農業競争力強化農地整備事業（農地整備事業【経営体育成型】） 砂子地区 ② 事業概要 ・事業期間 令和2年から令和11年 ・受益面積 65.5ha ・総事業費 約24億円 ・標準区画 50a（100m×50m） ③ スマート農業の取組み ・自動給水栓の設置（セキスイ「水まわりくん」を試行中。今後、事業で設置予定） ・リモコン草刈り機の導入に向けた法面の緩傾斜化（2割勾配）を実施。 ・排水路の暗渠化。 ④ 営農関係 地元組織「ガンバ砂子」に40ha程度集積する他、個人担い手3人に集積、将来的な集積率は98%を予定。 ⑤ その他 ・法面勾配の緩傾斜化（2割）は、事業計画時（1割5歩）からの計画変更事項となり、これに伴う水張面積（効果発生面積）の縮小が費用対効果に影響するため、適宜、効果を試算しながら進める必要があること。 ・埋蔵文化財包蔵地であるため、発掘調査（費用比較で保護盛土よりも安価）に係る期間が事業期間の長期化となり、事業効果発現に影響するので留意が必要であること。	
 地下排水等について説明を受ける	



砂子地区のスマート農業に対応した取り組み

Ⅲ. 農村地域防災減災事業（管水路工事）について

講師：岩手県南広域振興局 農政部 北上農村整備センター
農村環境課 総括主任主査 水本 歩 氏

本地区は、度重なる地震等により FRPM 管水路の一部が破裂し、農地等への被害が発生していることから、管水路の耐震工事を実施しているもの。工事実施において、業者提案による仮設工（作業スピードを飛躍的に向上させた建込簡易土留めによる施工）や ICT 施工を実施している。

【概要】

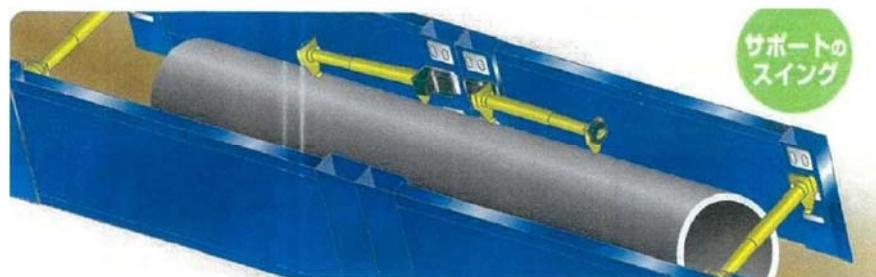
- ① 事業名及び地区名
農村地域防災減災事業 後藤・横川目地区

- ② 事業概要
- ・事業期間 令和元年から令和9年度
 - ・事業量 管路更新延長 L=7.5km
 - ・総事業費 約17億円
 - ・受益農家 498戸 537ha

- ③ 仮設工
全長 6200mm、DCIPφ1200 の用水管を敷設するにあたり、切梁がスイングする建込簡易土留め（クイック土留ボックス式 36 パネルシリーズ）を使用。この工法は配管を切断せずに敷設することが出来るため、管溶接個所が減り、施工スピードが飛躍的に向上したものの。



現地にて ICT 施工に関する説明を受ける



「36 パネルシリーズ」切梁（サポート）を畳み込むことで、長尺の配管を切断せずに敷設可能

- ④ ICT 施工

工事の測量、施工、出来形管理にあたって、従来の施工技術と比べ、高い生産性と施工品質の向上を目的に情報化技術（ICT）を活用したもの。施工管理は次のとおり。

- ・3次元起工測量：空中写真測量（UAVを用いた起工測量）
- ・3次元設計データ作成
- ・ICT建設機械による施工：バックホウによる床掘
- ・3次元出来高管理
- ・3次元データの納品

公益社団法人日本技術士会東北本部 岩手県支部事業活動報告

⑤ その他

- ・ ICT 施工により丁張りが不要になるほか、床掘施工の過掘を防止できるメリットは大。
- ・ 36 パネルシリーズの土留め工を採用することにより工期短縮と DCIP 管の切断箇所の減などによる費用削減が期待できるが、土留め製品自体が高価であるため、コスト削減については総合的な検討が必要となること。

IV. 「和賀中央農業水利事業（幹線用水路工事）」について

講師：農林水産省東北農政局和賀中央農林水利事業所 次 長 後藤 誠一 氏
工事第二課長 北川 博 氏
若築建設株式会社 東北支店 後藤 敬一 氏

和賀中央土地改良事業計画に基づき、下堰幹線用水路を改修工事するもの。施工区間には、開水路工、暗渠工及びサイフォン工があり、特に、サイフォン工の水替えでは、建設当初から約 50 年ぶりに長大延長のサイフォン内水を空にしたうえでの施工であり、強制換気・通気などを行い、安全な衛生環境に留意した施工を行っている。

① 工事件名

令和 6 年度 和賀中央農業水利事業 下堰幹線用水路（その 8）工事
・ 工事場所 岩手県北上市和賀町横川目地内
・ 事業工期 令和 6 年 8 月 6 日～令和 7 年 3 月 10 日
・ 主要工事内容 開水路 水路補強工 L=949.24m、水路補修工 L=65.50m
サイフォン工 L=349.85m、遊歩道工 L=25.51m

② 作業概要

和賀中央土地改良事業計画に基づき、コンクリート経年劣化等が顕著な下堰幹線用水路を改修するもの（施工は、非かんがい期に限られる）。

③ 工事施工

サイフォン部分（BOX2400×2400）：内水をポンプにて排水後、高圧洗浄、劣化状況確認のうえ、底版部分を 10cm コンクリート増打ち、側壁部を 5cm ポリマーセメントモルタル被覆、ほか止水工、目地補修を実施。

④ 仮設工

サイフォン工の水替えでは、水中ポンプ 3 台の汲み上げにより、全線排水に約 3 週間を要した。

⑤ その他

サイフォン内の水を抜くのは約 50 年ぶり、50 年間空気にさらされていないサイフォンの壁面は思いのほかきれいで、中性化が進みづらい条件で劣化が抑制されたものと推定。



サイフォンの入口から内部に入る



サイフォンの内部で説明を受ける

V. 編集後記

今年度の現地研修会は、昨年度に引き続き「中山間地でのスマート農業」に対応したほ場整備工事、ICT 施工のダクタイル管水路工事および開水路・サイフォン工の補強・補強工事に関する内容をテーマとしました。

砂子地区は、典型的な中山間地のほ場整備実施地区であることから、平場とは異なるスマート農業に配慮した排水路の暗渠化や畦畔法面の勾配の考え方のほか、中山間地でのほ場整備工事における留意すべき視点について示唆を頂きました。これは、工事段階の外に設計段階においても配慮すべき内容も含んでおり、現場から教示された貴重な視点として大変興味深いものでした。

後藤・横川目地区および下堰幹線用水路では、特殊な土留工法や、サイフォンの水替えなど、設計において、普段あまりお目にかからない内容を現地確認することが出来ました。工事施工における仮設工は、施工費及び工期に大きく影響する場合が多く、設計段階から現地に即した仮設工法を検証・設定することは非常に重要であります。今回の現地研修では、特にそのことを強く認識させられるものでした。

サイフォン工事の現地では、50 年ぶりに水を抜いたサイフォン（現場打ちコンクリート BOX2400×2400）の中を、約 350m歩いて視察しました。当時の施工時以来 50 年ぶりに空気にさらされたサイフォンのコンクリート壁面は、洗浄後に思いのほかきれいな状態を表し、目地などの痛みも少ないと感じました。参加者はこの状態を驚くとともに、尻平川の川底を横断する長大なサイフォン内部を近接確認する機会が得られたことに、参加者全員が感動していました。

今年度の現地研修は、このように盛りだくさんな内容となるなか、昨年に続き技術士を目指す若い技術者の参加が多く、女性技術者にも参加して頂いたことを主催者として喜んでおります。

また、研修現地では活発な質疑があり、その都度に講師から丁寧なわかりやすい説明・回答を受けましたので、実り多い現地研修会となったのではと感じております。

来年も本企画の継続を要望する声が寄せられ、引き続き会員の方々からの要望に応えられる企画をご案内して参る所存です。

結びに、研修会の講師を快くお引き受けくださいました岩手県県南広域振興局農政部北上農村整備センター 技術主幹兼農地整備課課長 菅原 憲哉 様 同課主任 五十公野 太郎 様、同農村環境課 総括主任主査 水本 歩 様、農林水産省東北農政局和賀中央農林水利事業所 次長 後藤 誠一 様、同所工事第二課長 北川 博 様、若築建設株式会社 東北支店 後藤 敬一 様には紙面を借りて厚く感謝申し上げます。

（文責 佐藤 俊孝）

岩手県支部 委員会・研究会 活動報告

活動名	令和6年度 第1回都市研究会現場見学会 (CPD 番号 6-10)
主催	(公) 日本技術士会東北本部岩手県支部都市研究会
日時	令和6年11月2日(土) 15:00 ~ 16:30
場所	莫蔭九(ござく)・森九商店(岩手県盛岡市紺屋町1-31)
参加人数等	古山、海野、平井、高島、下川、出口、本間、佐藤(会長) 会員6名、非会員2名
活動内容	
令和6年度第1回都市研究会現場見学会は、盛岡市の景観重要建造物である莫蔭九・森九商店の現場見学会を行ったもの。 1 莫蔭九・森九商店の概要について (1) 位置と構造:紺屋町の東北電力社屋と三島医院の間に位置。広い敷地に、店舗、住居、土蔵など数棟が建設されている。紺屋町側に店舗と住居、中津川側に蔵と塀が配置。 (2) 紺屋町道路側の景観:道路が「くの字形」に屈折しており、建物がそれに沿って建築。見る角度によって建物がさらに長く見える構造。屋根は低い軒先からゆるい勾配で奥行が深く、瓦の色が景観に調和。江戸から明治時代の商家らしい横長の構造を持ち、風情を伝える。 (3) 中津川側の景観:中津川の清流越しに、石垣、瓦屋根、白壁の蔵、土塀が調和した美しい景観。左岸側からは、現代建築と歴史的建築が対比される見事なコントラストを楽しめる。 (4) 建築的特徴:一部は中2階、高さを抑えた2階建構造。黒い瓦葺きの庇が建物の横長感を強調。現代風の看板が一切なく、明治時代の色調で落ち着いた雰囲気。 (5) 歴史的・文化的価値:周囲の歴史的建造物(岩手銀行本店、紺屋町番屋)や中津川との調和が盛岡らしい景観を形成。市中心部における貴重な歴史的価値を持つ。 2 現場見学会の概要 七代目店主である森氏から、莫蔭九・森九商店の歴史と現状について、『きららな街』盛岡を作る会の小田中氏から莫蔭九と地域との関わりに説明頂き、そして、令和6年8月に発生した水害について意見交換を行った。 (1) 莫蔭九・森九商店の歴史と変遷について 森氏から、莫蔭九・森九商店は江戸時代から続く店であり、当初は日用品を扱い行商などで商品を集めて、その後様々な商品を取り扱うようになったことが語られ、特に、灯心や井草などを中心に扱っていたことが強調された。 (2) 建物の歴史と構造について 莫蔭九は、元々、別の場所にあった建物を移築したものであり、明治時代初期に建てられたと推測されていることと、明治中頃までに行われた改修の歴史や建物の構造について詳しく語って頂いた。 (3) 建物の現在の使用状況について 現在、倉庫として使用しているほか、地域の集会やギャラリーとしても活用している一方で、建物の維持管理の課題についても言及があった。 (4) 地域活性化の取り組みについて 小田中氏からは、莫蔭九の活用に係る取り組みとして、お茶会や落語会、写真展など、様々なイベントを開催している旨の説明があった。また、これらの取り組みを通して、若い世代との交流や、地域の人々との連携についても言及があった。 (5) 水害問題と対策について 令和6年8月に3回生じた水害問題について意見交換した。排水構造の課題や改善策について話し合った。特に、地形的な問題や排水路の構造について意見交換後、現地の状況について確認した。 ＜ 以 上 ＞	

写真1：現場見学会における意見交換の様子



写真2：莫蔭九・森九商店の内部の様子



写真3：莫蔭九・森九商店の内部の様子



岩 手 県 支 部 委 員 会 ・ 研 究 会 活 動 報 告

活 動 名	第1回倫理研修 失敗の本質 ～岩手県庁の組織論的研究～ (CPD 番号 6-11)
主 催	公益社団法人 日本技術士会 東北本部 岩手県支部
日 時	令和7年1月25日(土) 13:15～14:45
場 所	プラザおでって 大会議室 (〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通1丁目1-10)
参加人数等	28名

活 動 内 容

●講演内容

講師：岩手県ふるさと振興部長 村上 宏治 氏

県庁組織には過去に多くの良いことや悪いことがあり、大々的に報道され、信用を損なった事件も複数あった。

本講演では、そうした「県庁を揺るがした大事件」を紹介し、その発生原因や組織の問題点、改善の取組について説明があったもの。古い事案が多いが、それらの発生原因や課題は現在にも共通する部分があり、業務や組織を考える時に参考となるもの。

●講演要旨

講師は、岩手県庁で発生した4つの重大な失敗事例を通じて、組織的な学びと改善の重要性について講演しました。主な事例として、奥産道事件、大迫事件、大船渡入札事件、不適正経理事件が取り上げられました。

- ・ 奥産道事件の概要：平成8年度に発生した環境破壊事件。ボーリング調査業者の不適切な作業により、特別国立公園内で500mにわたる原生林が破壊され、関係者が書類送検される事態となった。
- ・ 大迫町事件の概要：平成9～10年度に発生した大迫町の展望台整備事業における不正事務処理。事業完了確認が適切に行われず、虚偽の公文書作成が行われた事例
- ・ 大船渡入札事件の概要：平成12年度に発生した大船渡地方振興局での入札不正事件。正当な入札結果を後から変更するために虚偽の公文書が作成された事例
- ・ 不適正経理事件の概要：平成20年度に発覚した不適正経理について、物品発注における不正処理と、その背景にあった組織文化について説明された。

講師は、これらの事例から組織内の情報共有、業務の進捗管理、適切なコミュニケーションの重要性を強調し、特に「1人しか知らない状態を作らないこと」の重要性を指摘しました。

また、組織内での風通しの良いコミュニケーションの実現方法や、上司としての適切なマネジメントについても言及されました。

(文責 佐藤充弘)



講師の村上氏



講演の様子

事業報告

活動名	日本技術士会東北本部岩手県支部令和7年度新春講演会 ～シリーズ岩手を知る（第32回）～ 「明治日本の産業革命」～釜石の軌跡～ (CPD 番号 6-12)
主催	公益社団法人 日本技術士会 東北本部 岩手県支部
日時	令和7年1月25日（土）15:00～16:30
場所	プラザおでって（盛岡市中ノ橋通 1-1-10）
参加人数等	会場 40 名（会員 33 名、一般 7 名）WEB 配信視聴 4 名、合計 44 名

活動内容

【講演の要旨】

日本の産業革命は東洋初にして約半世紀という短期間で成し遂げられ、それを物語る遺産群が2015年に「明治日本の産業革命遺産」として世界遺産に登録されたが、2025年はその10周年に当たる。今回は世界遺産に登録された釜石の製鉄業の軌跡を中心に講演を頂いた。

1. 講演内容

【講師】

釜石市文化スポーツ部文化振興課世界遺産室長兼同課主幹兼釜石市立鉄の歴史館館長 森一欽（もり かずよし）氏を招き講演を頂いた。森氏は昭和48年、愛知県生まれ、神奈川出身で、平成13年法政大学大学院人文科学研究科日本史専攻修士課程修了し、同年釜石市採用、文化財調査員として主に遺跡の発掘調査に従事。東日本大震災の復興発掘等も担当する一方、橋野鉄鉱山の世界遺産登録及び釜石の鉄の歴史の周知活動に従事している。

【講演要旨】

4億年前、赤道付近の大陸が分離し、長い年月をかけて海洋プレートと大陸プレートからこすり取られてできる「付加体」により南部北上山地ができた話から始まり、鉄原料の誕生（三陸の成り立ち）、近代化前の鉄の歴史、鉄産業の近代化の歴史、明治日本産業革命遺産についてご講演を頂いた。近代化前の砂鉄を原材料とした「たたら」製法では、当時、必要とされた大砲の製造に不向きであり、磁鉄鉱を原材料として、より高温で鉄を溶かす反射炉（洋式高炉）による製法が求められている中、盛岡出身の大島高任らが釜石において反射炉の建設に成功し、その後、日本各地に反射炉の建設が広まった。明治日本の産業革命における八幡は「達成の地」であるが、釜石は良質の磁鉄鉱が産出され、初めて反射炉が建設された「発祥の地」であるということに感銘を受けた。

参加者から観光客に関する質問が出され、目標は1万人/年であるなど森氏からは丁寧な回答があった。
(文責 永田裕一)



会長の挨拶（番澤氏代理）



司会の高橋氏



公演中の森氏



開場の様子

報告及び議案事項 2

新・旧役員一覧表(案)

上段：【県支部】

下段：【フォーラム】

※太字:変更あり

(2025.06.02)

氏名の◎は本部会員、Fはフォーラム会員		旧（2023～24年度）	新（2025～26年度）	
支部長（代表幹事）		◎ 古山 裕康	◎ 菅原 常彦	
代表幹事		◎ 阿部 幸樹	◎ 阿部 幸樹	
副支部長 （副代表幹事）	総務委員長	◎ 番澤 悦昭	◎ 番澤 悦昭	
		◎ 川野 好宏	◎ 佐藤 充弘	
	企画委員長	◎ 川野 好宏	◎ 佐藤 充弘	
		//	//	
	広報委員長	◎ 利部 哲	◎ 利部 哲	
		//	//	
	技術委員長	◎ 菅原 常彦	◎ 本間 崇志	
		//	//	
研究会代表	道路研究会	◎ 熊谷 利明	◎ 熊谷 利明	
		//	//	
	河川研究会	◎ 高橋 正博	◎ 高橋 正博	
		//	//	
	鉄道研究会	◎ 澤田 貞悦	—	休会（2025,1,29）
		//	—	
	都市研究会	◎ 佐藤 充弘	◎ 佐藤 充弘	
		//	F 下川 憲	
	施工研究会	◎ 平井 公康	—	廃会（2025,1,29）
		//	—	
	農業研究会	◎ 佐藤 俊孝	◎ 佐藤 俊孝	
		//	//	
	機械電気研究会	◎ 武田 洋一	◎ 武田 洋一	
		//	//	
	森林水産研究会	◎ 西村 和明	◎ 吉田 宏	
		◎ 小原 正明	//	
	応用理学研究会	◎ 菅原 弘	◎ 菅原 弘	
		//	//	
	鋼構造コンクリート研究会	◎ 菅原 常彦	◎ 菅原 常彦	
		//	//	
	建設ICT生産システム研究会	◎ 村上 功	◎ 村上 功	オブザーバー
		//	//	
副委員長	総務副委員長	◎ 加藤 修	◎ 山田 龍	
		//	//	
	企画副委員長	◎ 永田 裕一	◎ 永田 裕一	
		//	//	
	広報副委員長	◎ 高橋 敏晴	◎ 高橋 敏晴	
		//	//	
	技術副委員長	◎ 本間 崇志	◎ 熊谷 利明	
		//	//	
幹事			◎ 松原 和則	
会 計 幹 事		◎ 菅原 隆彦	◎ 古山 裕康	
		//	//	
		◎ 松原 和則	◎ 川野 好宏	
		//	//	

2025 年度岩手県支部事業計画書

〔2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日〕

■ 活動理念

- 自らの資質を向上させるよう、社会の変化と今後の動向を的確にとらえ技術の研鑽に継続して取り組む。
- 岩手県支部の総合力を向上させるよう組織強化を図るとともに、支部活動を通じて会員相互の連携を強化する。
- 社会・地域により一層の貢献ができるよう、公益的な活動や他機関との協働を進める。
- 技術士活動の継続的な発展が図られるよう、あらゆる場で若い技術者の育成を心がける。

■ 2025 年度の活動にあたって

東日本大震災から 14 年が経過し、震災復興は、ほとんどのハード整備が終わり、これからは被災者への継続的なケアとともに、復興後の地域の活性化や整備されたインフラの有効的な活用等、新たな課題に向けた取組が必要なフェーズへと移行しつつあります。

また、近年多発する台風や豪雨等による大規模災害への備えも重要な課題と認識しており、これらの様々な災害を経験してきた本県における当支部の役割として、改めて災害への見識を深め、公衆の安全、福利の確保につながる活動に努めていきたいと思いをします。

国が進める DX については、ビッグデータ、AI や IoT を始めとするデジタル情報技術が日々進化しており、技術的専門分野のみならず、我々の日常生活においても更に大きな変化をもたらすことは確実であり、これらに敏感に対応することが大切であると考えます。

技術士制度については、一般の方々には未だなじみが薄い状況です。このため、産学官のみならず、その枠組を超えた様々な活動を通じて技術士制度を積極的に PRするとともに、新たな技術士の育成につながるよう努めてまいります。

継続教育（CPD）については、それにより研鑽を重ねることは我々技術士としての責務であり、支部として昨年度にスタートした倫理研修を継続するほか、その他の研修内容についても検討を進めるとともに、CPD 登録会員の増加を図ってまいります。

今年度は、以上の方針により、引き続き社会・地域から頼りにされる技術士会岩手県支部を目指した活動を展開してまいります。併せて、来年度、全国規模のイベントである「地域産学官と技術士との合同セミナー」が本県において開催されることも踏まえて、組織力の強化を図ってまいりたいと思っておりますので、会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

I. 一般事業

1. 委員会活動

主体	事業計画	概 要	実施予定
役員会	役員会	岩手県支部の規則に則り年間6回を計画し、支部活動に関する協議を行なう	隔月
総務委員会	2025 年度次大会	2024 年度活動報告及び 2025 年度事業計画	2025.7.5
	技術士名簿作成	岩手県支部及びいわて技術フォーラム 会員技術士の名簿作成	2025.6
企画委員会	いわてまるごと 科学・情報館への 出展	岩手県政策地域部の主催による、小中学生を対象とした、広く科学技術についての教育啓蒙活動への参加。当支部もその協賛支援団体で参画。	2025. 11.29
	2025 秋季講演会	～シリーズ岩手を知る第 34 回～	2025.10.4
	2026 新春講演会	～シリーズ岩手を知る第 35 回～	2026.1.24
広報委員会	HP 運用	会員及び一般向けの情報掲載	随 時
	ガイアパラダイム への寄稿	① 各県支部長年頭の挨拶 ② 岩手県支部活動報告等(2 回/年)	東北本部 依 頼 時
	いわてまるごと科学・ 情報館への出展	岩手県政策地域部の主催による、小中学生を対象とした、広く科学技術についての教育啓蒙活動への参加。当支部もその協賛支援団体で参画。	2025.11.29
技術委員会	第 2 回倫理研修	「技術士倫理綱領」の各条項を踏まえた テーマを設定	2025.11
	第 3 回倫理研修	「技術士倫理綱領」の各条項を踏まえた テーマを設定	2026.1

2. 研究会等活動

研究会名	事業計画	概 要	実施予定
道 路	現場見学会	宮古盛岡横断道路田鎖嶺目道路に係る 現場研修	2025.10~12
河 川	現場研修会	盛岡市、滝沢市 - 県内の主な治水対策に関する現地研修 ・国土交通省：四十四田ダム（嵩上げ計画） ・県盛岡広域振興局土木部 松川河川改修（ICT 施工）、 木賊川遊水地（自然環境配慮）	2025.9.26
鉄 道	休 会	—	—
都 市	講演会	現在実施している都市計画事業の現地 視察を実施	2025.11
	意見交換会 (web による)	現在実施している都市計画事業の意見交 換を実施	2025.11
施 工	廃 会	—	—
農 業	現地研修会	県内の主な農業農村整備事業等に関する 現地研修	2025.10 下旬
機械電気	検討中		
森林・水産	講演会	「ツキノワグマの生態と被害防除 -盛岡 市のある集落ぐるみの取り組み-」 講師：国立大学法人 岩手大学 名誉教授 青井俊樹氏	2025.4
	現地研修会	釜石市 岩手県水産技術センター見学	2025.10
応用理学	野外見学会	応用理学に関連する見学会 （技術士を目指す若手技術者～ベテラン技術者 までを対象に、世代間コミュニケーションの 活性化を図る場として） 講師：越谷 信氏	2025.10
	親睦会	盛岡市 研究会員の親睦、意見交換の場として	2025.6
鋼構造及び コンクリート	現場見学会	・補修・補強現場見学 ・新設橋梁現場見学	2025.9~12
建設 ICT 生産 システム	AI 利用研修	DX 推進にあたって注目の AI の活用研修	2025.9

3. 社会貢献活動

(1) 講演会などの開催

岩手県の震災復興、地域の活性化に向けた取り組みについて情報発信を行う。

(2) いわてまると科学・情報館への参加

例年通りの対面方式を予定している。

- ・ 主催：岩手県（いわてまると科学館実行委員会）
- ・ 開催目的：将来を担う子供たちに先端科学にふれる機会を提供する県民参加型科学技術の普及活動
- ・ 日時：2025 年 11 月 29 日（土）
- ・ 場所：アイーナ（盛岡市盛岡駅西通 1 丁目 7-1）
- ・ 当支部・フォーラムの参加：体験・展示コーナーへの出典を予定

4. その他

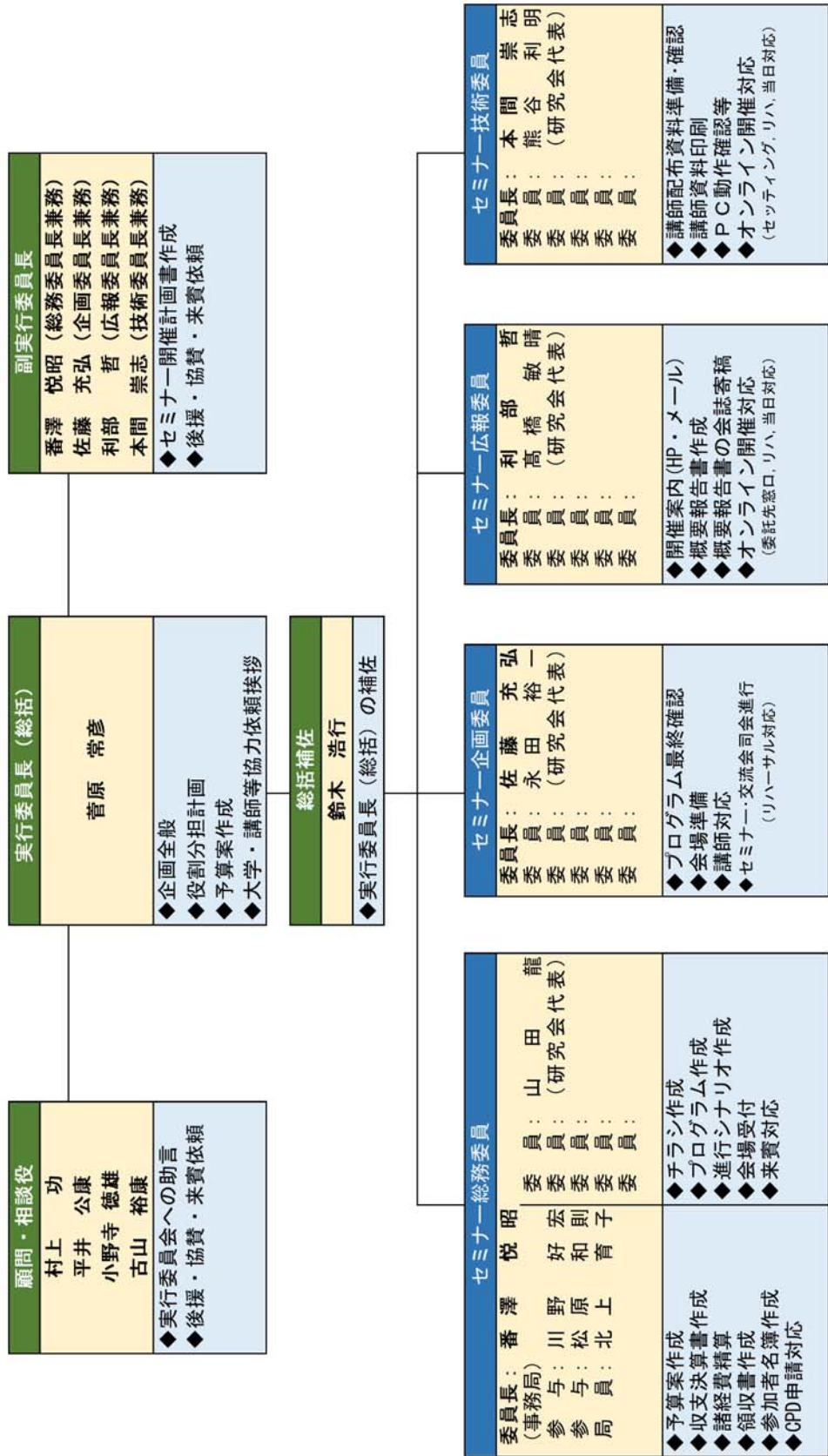
岩手県内在住の技術士が参加できる事業を展開し、併せて日本技術士会未加入の技術士に対する加入促進を図る。

東北本部 + 岩手県支部 一般会計収支予算書（案）
（2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日まで）

科 目	次年度	今年度	増 減	東北本部			岩手		
				(次年度)	(今年度)	(増減)	(次年度)	(今年度)	(増減)
I 事業活動収支の部									
1 事業活動収入									
(1)入会金収入	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
①会員入会金収入	0	0	0			0			0
②賛助会員入会金収入	0	0	0			0			0
(2)会費収入	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
①会員会費収入	0	0	0			0			0
②準会員会費収入	0	0	0			0			0
③賛助会員会費収入	0	0	0			0			0
(3) 事業収入	[0]	[2,050]	[△ 2,050]	[0]	[180]	[△ 180]	[0]	[0]	[0]
①広告料収入	0	1,100	△ 1,100			0			0
②参加費収入	0	820	△ 820		150	△ 150			0
③各種資料等頒布収入	0	130	△ 130		30	△ 30			0
④外部依頼管理収入	0	0	0			0			0
⑤CPD事業収入	0	0	0			0			0
⑥APEC審査登録手数料収入	0	0	0			0			0
⑦IPEA審査登録手数料収入	0	0	0			0			0
⑧技術士全国大会収入	0	0	0			0			0
⑨日韓技術士会議収入	0	0	0			0			0
⑩受託事業収入	0	0	0			0			0
(4) 雑収入	[0]	[4,308]	[△ 4,308]	[0]	[3,240]	[△ 3,240]	[0]	[0]	[0]
①受取利息収入	0	12	△ 12			0			0
②有価証券運用収入	0	0	0			0			0
③雑 収 入	0	44	△ 44			0			0
④協賛金収入	0	4,252	△ 4,252		3,240	△ 3,240			0
⑤寄付金収入	0	0	0			0			0
(5) 地域組織活動費収入	[7,584]	[7,571]	[13]	[7,584]	[7,571]	[13]	[411]	[348]	[63]
(6) 地域組織活動補助費収入	[5,160]	[5,490]	[△ 330]	[3,880]	[4,230]	[△ 350]	[260]	[250]	[10]
①講演会・見学会開催補助費収入	2,160	2,140	20	880	880	0	260	250	10
②全国大会補助費収入	0	0	0			0			0
③日韓技術士会議補助費収入	0	0	0			0			0
④合同セミナー開催補助費収入	0	0	0			0			0
⑤地域交流促進補助費収入	0	350	△ 350		350	△ 350			0
⑥その他補助費収入	3,000	3,000	0	3,000	3,000	0			0
事業活動収入計 (A)	[12,744]	[19,419]	[△ 6,675]	[11,464]	[15,221]	[△ 3,757]	[671]	[598]	[73]

科 目	次年度	今年度	増 減	東北本部			岩手		
				(次年度)	(今年度)	(増減)	(次年度)	(今年度)	(増減)
2 事業活動支出									
(1) 事業費	(0)	(19,496)	(△ 19,496)	(0)	(15,225)	(△ 15,225)	(0)	(0)	(0)
① 事業促進費	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
対外活動促進費	0	0	0			0			0
会員拡大促進費	0	0	0			0			0
基盤情報整備費	0	0	0			0			0
その他の事業開発費	0	0	0			0			0
② 報酬調査費	0	0	0			0			0
③ 事業広報費	(0)	(3,196)	(△ 3,196)	(0)	(1,740)	(△ 1,740)	(0)	(0)	(0)
会誌印刷費	0	2,370	△ 2,370		1,500	△ 1,500			0
会誌編集関連費	0	0	0			0			0
会誌郵送費	0	135	△ 135		50	△ 50			0
HPコンテンツ作成費	0	0	0			0			0
インターネット運用費	0	600	△ 600		140	△ 140			0
その他の広報活動費	0	91	△ 91		50	△ 50			0
④ 普及啓発費	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
技術士全国大会開催費	0	0	0			0			0
全国大会補助費	0	0	0			0			0
全国大会広報費	0	0	0			0			0
合同セミナー開催費	0	0	0			0			0
地域産業活性化支援費	0	0	0			0			0
関係団体年会費	0	0	0			0			0
⑤ 相互交流費	(0)	(500)	(△ 500)	(0)	(500)	(△ 500)	(0)	(0)	(0)
企業内技術士活動推進費	0	0	0			0			0
地域交流促進費	0	500	△ 500		500	△ 500			0
⑥ 研 鑽 費	(0)	(2,660)	(△ 2,660)	(0)	(880)	(△ 880)	(0)	(0)	(0)
講演会・見学会開催費	0	2,660	△ 2,660		880	△ 880			0
技術士研修費	0	0	0			0			0
⑦ 海外交流費	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
国際交流費	0	0	0			0			0
海外活動支援費	0	0	0			0			0
日韓技術士会議開催費	0	0	0	0	0	0			0
⑧ 修習技術者支援費	0	0	0			0			0
⑨ 各種資料等作成費	0	30	△ 30		30	△ 30			0
⑩ CPD事業費	0	0	0			0			0
⑪ APEC審査登録事務費	0	0	0			0			0
⑫ IPEA審査登録事務費	0	0	0			0			0
⑬ 受託事業費	0	0	0			0			0
⑭ 業務推進費	(0)	(13,110)	(△ 13,110)	(0)	(12,075)	(△ 12,075)	(0)	(0)	(0)
役 員 報 酬	0	0	0			0			0
給 与 手 当	0	0	0			0			0
法定福利費	0	0	0			0			0
賃 金	0	3,072	△ 3,072		3,000	△ 3,000			0
会 議 費	0	520	△ 520		200	△ 200			0
旅費交通費	0	1,780	△ 1,780		1,400	△ 1,400			0
通信運搬費	0	670	△ 670		300	△ 300			0
消 耗 品 費	0	260	△ 260		100	△ 100			0
印刷製本費	0	250	△ 250		100	△ 100			0
各種会費	0	600	△ 600		200	△ 200			0
光熱水料費	0	190	△ 190		180	△ 180			0
事務所賃借料	0	1,820	△ 1,820		1,000	△ 1,000			0
賃 借 料	0	200	△ 200		200	△ 200			0
会員証作成費	0	0	0			0			0
地域組織活動費	0	0	0		2,745	△ 2,745			0
地域委員会活動費	0	3,010	△ 3,010		2,250	△ 2,250			0
雑費その他	0	738	△ 738		400	△ 400			0
(2) 管理費	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
事業活動支出計 (B)	(0)	(19,496)	(△ 19,496)	(0)	(15,225)	(△ 15,225)	(0)	(0)	(0)
事業活動収支差額 (A) - (B)	(12,744)	(△ 77)	(12,821)	(11,464)	(△ 4)	(11,468)	(671)	(598)	(73)
II 投資活動収支の部									
1 投資活動収入									
(1) 特定資産取崩収入	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
退職給与引当預金取崩収入	0	0	0			0			0
記念事業積立預金取崩収入	0	0	0	0	0	0			0
投資活動収入計 (C)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2 投資活動支出									
(1) 特定資産取得支出	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
退職給与引当預金支出	0	0	0			0			0
(2) 固定資産取得支出	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
① 什器備品購入支出	0	0	0			0			0
② 長期未払金返済支出	0	0	0			0			0
投資活動支出計 (D)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
投資活動収支差額 (C) - (D)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
III 予備費支出									
(1) 予備費支出 (E)	(0)	(0)	(0)			(0)			(0)
当期収支差額[(A)+(C)] - [(B)+(D)+(E)]	(12,744)	(△ 77)	(12,821)	(11,464)	(△ 4)	(11,468)	(671)	(598)	(73)
前期繰越収支差額	(13,448)	(16,758)	(△ 3,310)	(3,940)	(6,609)	(△ 2,669)	(951)	(900)	(51)
次期繰越収支差額	(26,192)	(16,681)	(9,511)	(15,404)	(6,605)	(8,799)	(1,622)	(1,498)	(124)

第52回 地域産学官と技術士との合同セミナー（岩手） 実行委員会 組織図（案）



※各セミナー委員及び◆印事務分担任は、今後追加、変更等があること。

技 術 士 倫 理 綱 領

昭和 36 年 3 月 14 日理事会制定
平成 11 年 3 月 9 日理事会変更承認
平成 23 年 3 月 17 日理事会変更承認
2023 年 3 月 8 日理事会変更承認

【前文】

技術士は、科学技術の利用が社会や環境に重大な影響を与えることを十分に認識し、業務の履行を通して安全で持続可能な社会の実現など、公益の確保に貢献する。

技術士は、広く信頼を得てその使命を全うするため、本倫理綱領を遵守し、品位の向上と技術の研鑽に努め、多角的・国際的な視点に立ちつつ、公正・誠実を旨として自律的に行動する。

【本文】

(安全・健康・福利の優先)

1. 技術士は、公衆の安全、健康及び福利を最優先する。

(1) 技術士は、業務において、公衆の安全、健康及び福利を守ることを最優先に対処する。

(2) 技術士は、業務の履行が公衆の安全、健康や福利を損なう可能性がある場合には、適切にリスクを評価し、履行の妥当性を客観的に検証する。

(3) 技術士は、業務の履行により公衆の安全、健康や福利が損なわれると判断した場合には、関係者に代替案を提案し、適切な解決を図る。

(持続可能な社会の実現)

2. 技術士は、地球環境の保全等、将来世代にわたって持続可能な社会の実現に貢献する。

(1) 技術士は、持続可能な社会の実現に向けて解決すべき環境・経済・社会の諸課題に積極的に取り組む。

(2) 技術士は、業務の履行が環境・経済・社会に与える負の影響を可能な限り低減する。

(信用の保持)

3. 技術士は、品位の向上、信用の保持に努め、専門職にふさわしく行動する。

(1) 技術士は、技術士全体の信用や名誉を傷つけることのないよう、自覚して行動する。

(2) 技術士は、業務において、欺瞞的、恣意的な行為をしない。

(3) 技術士は、利害関係者との間で契約に基づく報酬以外の利益を授受しない。

(有能性の重視)

4. 技術士は、自分や協業者の力量が及ぶ範囲で確信の持てる業務に携わる。

(1) 技術士は、その名称を表示するときは、登録を受けた技術部門を明示する。

(2) 技術士は、いかなる業務でも、事前に必要な調査、学習、研究を行う。

(3) 技術士は、業務の履行に必要な場合、適切な力量を有する他の技術士や専門家の助力・協業を求める。

(真実性の確保)

5. 技術士は、報告、説明又は発表を、客観的で事実に基づいた情報を用いて行う。

(1) 技術士は、雇用者又は依頼者に対して、業務の実施内容・結果を的確に説明する。

(2) 技術士は、論文、報告書、発表等で成果を報告する際に、捏造・改ざん・盗用や誇張した表現等をしない。

(3) 技術士は、技術的な問題の議論に際し、専門的な見識の範囲で適切に意見を表明する。

(公正かつ誠実な履行)

6. 技術士は、公正な分析と判断に基づき、託された業務を誠実に履行する。

(1) 技術士は、履行している業務の目的、実施計画、進捗、想定される結果等について、適宜説明するとともに応分の責任をもつ。

(2) 技術士は、業務の履行に当たり、法令はもとより、契約事項、組織内規則を遵守する。

(3) 技術士は、業務の履行において予想される利益相反の事態については、回避に努めるとともに、関係者にその情報を開示、説明する。

(秘密情報の保護)

7. 技術士は、業務上知り得た秘密情報を適切に管理し、定められた範囲でのみ使用する。

(1) 技術士は、業務上知り得た秘密情報を、漏洩や改ざん等が生じないように、適切に管理する。

(2) 技術士は、これらの秘密情報を法令及び契約に定められた範囲でのみ使用し、正当な理由なく開示又は転用しない。

(法令等の遵守)

8. 技術士は、業務に関わる国・地域の法令等を遵守し、文化を尊重する。

(1) 技術士は、業務に関わる国・地域の法令や各種基準・規格、及び国際条約や議定書、国際規格等を遵守する。

(2) 技術士は、業務に関わる国・地域の社会慣行、生活様式、宗教等の文化を尊重する。

(相互の尊重)

9. 技術士は、業務上の関係者と相互に信頼し、相手の立場を尊重して協力する。

(1) 技術士は、共に働く者の安全、健康及び人権を守り、多様性を尊重する。

(2) 技術士は、公正かつ自由な競争の維持に努める。

(3) 技術士は、他の技術士又は技術者の名誉を傷つけ、業務上の権利を侵害したり、業務を妨げたりしない。

(継続研鑽と人材育成)

10. 技術士は、専門分野の力量及び技術と社会が接する領域の知識を常に高めるとともに、人材育成に努める。

(1) 技術士は、常に新しい情報に接し、専門分野に係る知識、及び資質能力を向上させる。

(2) 技術士は、専門分野以外の領域に対する理解を深め、専門分野の拡張、視野の拡大を図る。

(3) 技術士は、社会に貢献する技術者の育成に努める。